

予防効果が高い「不活化ワクチン」は基本的には50歳以上が対象

带状疱疹が増加しています



お答え
佐藤耳鼻咽喉科
佐藤孝至 院長

■プロフィール 愛知医科大学を平成元年卒業。広島大学病院・耳鼻咽喉科、東立広島病院・耳鼻咽喉科、市立三次中央病院・耳鼻咽喉科などを勤務を経て、愛知学院大学歯学部准教授ならびに歯学部附属病院・耳鼻咽喉科科長などを歴任。平成28年9月から佐藤耳鼻咽喉科医院院長、日本耳鼻咽喉学会専門医、博士(医学)〈メモ〉 ☎084(921)1678 (御船町1-11-11)
<http://satoent.jp/hospital/>

「佐藤耳鼻咽喉科」の佐藤孝至院長に、带状疱疹(ほうしん)について聞きました。

Q 带状疱疹が増えていくという話をよく聞くのですが…

A 带状疱疹は一度感染した(初感染は水痘)水ぼうそうとして発症「水痘・带状疱疹ウイルス

」が、水痘が治った後も潜伏感染を継続し、再活性化・再燃して起ります。日本人の場合、80歳までに3人に1人が一度は罹患(りか)するとされる身近な疾患です。ただ、新型コロナウイルス感染症の大流行以後、新型コロナウイルスによる免疫低下説など諸説あり、原因ははっきりしませんが、これまで罹患しやすいとされていた50歳以上のみならず、20歳代・30歳代の比較的若い世代が増えています。

い世代の発症が増えています。

Q 带状疱疹になるとどんな症状が出るのですか。対処法はありますか。

A 带状疱疹が耳鼻咽喉科領域、すなわち、顔面、頸部、口腔、咽頭に発症した場合、強い痛みに加えて、特に耳周囲の場合は難聴、めまい、顔面神経麻痺などの重篤な症状を合併し、特に带状疱疹による顔面神経麻痺は完治しにくいことが知られています。

带状疱疹にかかりにくくする対処法としては、規則正しい生活と、バランスの良い食事に加えて、十分な睡眠やストレスを避けること、皮膚を清潔

にし、保温・保湿を心掛けること、適度な運動など、免疫力を向上させる体調管理が大切です。

また、带状疱疹が発症する前の前駆症状として、ヒリヒリする皮膚の痛みを伴うことが多いので、皮疹が出る前の段階で、水痘・带状疱疹ウイルスに対する抗ウイルス薬を内服すると、発症を防ぐことができる可能性があります。

もう一つの予防法として、水痘・带状疱疹ウイルスに対するワクチン接種があります。带状疱疹に対するワクチンは「生ワクチン」と「不活化ワクチン」の2種類がありますが、「不活化ワクチン」の方が带状疱疹に対する予防効果が高いとされています。ただ、「不活化ワクチン」の接種は基本的に50歳以上が対象で、新型コロナウイルスと同様、上腕部への筋肉注射であること、2カ月後に再度接種が必要、すなわち2回であること、そして1回あたり約2万円〜3万円と費用が高価であることが、注意を要する点です。

種を希望される場合は、実施している皮膚科専門医や耳鼻咽喉科専門医に相談し、十分に理解・納得された上で接種されることをお勧めします。